

総括(案)

【評価の実施手法について】

令和2年度まで：

- ・全施策から施策を抽出し、数を絞っての評価。
- ・複数のグループに分かれて評価した後、全員で寄り、最終的な総合評価。
- ・施策評価シートを見て、網羅しきれていない部分は、より詳細な事務事業の説明文書や、原課へのヒアリングを行いながら実態も聞いた上で評価をする。

令和3年度から：

- ・全施策を委員全員で評価を行う。
- ・施策評価シートから評価に必要な情報を抽出した外部評価シートで評価する。
- ・まちづくりアンケートの結果、基本事業ごとに設定している成果指標(KPI)の達成状況等に対する適切な分析(内部評価)がなされているかを中心に評価を行う。

評価の実施手法について振り返り：

- ・
- ・
- ・

【まちづくりアンケート調査について】

令和4年度から：

- ・アンケート手法に DX の考え方を取り入れた。
- ・課題であった若年世代からも広く回答を得られるようになった。
- ・実施年度によっては、アンケート回答者が減少。安定したアンケート回答者の確保が課題。

令和5年度から：

- ・満足度が大きく下がった施策や毎年他の施策と比較して下位にある施策は、なぜ下がったか、改善につなげるため、「どの項目(基本事業)を重視して判断したのか」を確認する問を設けた。
- ・回答者がどの基本事業に着目し、「満足している・していない」という判断をしたのか捕捉できることとなった。

まちづくりアンケートについて振り返り：

- ・満足度、参画度(それ以外の指標)について
- ・設問について
- ・
- ・